

## ご挨拶

### 第43回全国大会開催にあたって

柏木 昭

本年11月11日及び12日、第43回全国大会を千葉市中央区大巖寺（だいがんじ）町、淑徳大学において開催する運びになりましたが、大会運営委員長として一言ご挨拶申し上げます。

21世紀を指呼の間に望み見る今日、私たち社会福祉の研究にたずさわるものにとって、従来の福祉のあり方を根本的に見直し、新しいパラダイムを模索し、構築していくことは喫緊の課題となっております。そこで今大会のテーマを「社会保障・社会福祉のパラダイム（制度・理念・実践）の転換」とし、これからの社会保障・社会福祉のあり方について、短い日程ではありますが、実り多い討論を期待して大会を設営させて頂くことになりました。

それにしても、まことに異常な幕開けによって本年は始まりました。阪神・淡路大震災に際しては多数の尊い命が失われたことについて、深い哀悼の意を表すものであります。また多くの被災者の方々には一日も早いご回復と災害状況からの復旧を願わずにはられません。今回特に設定した「震災と社会福祉」のシンポジウムには、じかに被災され、或いは災害を体験され、また救援活動に当たられた先生方にご報告をいただき、災害に係る福祉の役割についての討論を計画致しました。これは特別プログラムであります。その他、記念講演、シンポジウム、ポスター発表を含め自由研究発表（17分科会、26会場）、その他関連学会の交流会や紹介コーナーと、それに特別企画として、社会福祉の先達であり、当大学の創立者で



ある長谷川良信関係資料等の展示会や、本学の発達臨床研究センターの公開臨床が催されます。このように、盛り沢山のプログラムを組んでおりますが、学会員の皆様にご満足頂けるよう着々準備を進めております。

大会の運営につきましては不行届きのことも多くあろうかと危惧するものでございますが、美しい大巖寺キャンパスに、何卒多数の方々をご参加下さいますように心からお願い申し上げます。

（淑徳大学教授・第43回全国大会運営委員長）



# 日本社会福祉学会 第43回大会

## —— 参加へのご案内 ——

日本福祉学会は、第43回大会を淑徳大学で11月11日（土）、12日（日）の2日間にわたり開催致します。

皆様の多数のご参加をお待ちしています。

大会テーマ：社会保障・社会福祉のパラダイム  
（制度・理念・実践）の転換

会 場：淑徳大学

### 1. 大会日程

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
11月11日（土）			受付開始	自由研究発表	昼食	記念講演	総会	シンポジウム					懇談会
													関連学会 研究交流会
11月12日（日）			受付	自由研究発表	昼食	大会主題 シンポジウム							

11月12日（日）にポスター発表・関連学会・研究会紹介コーナーを設けます。  
右記をご参照下さい。



第1日 11月11日(土)

9:30 受付開始

10:00~12:30 自由研究発表

13:30~14:30 記念講演

14:30~16:00 学会総会

<16:00~18:00 関連学会・研究会交流会>

18:30~20:30 懇親会(会場:淑徳大学)

第2日 11月12日(日)

9:00~12:00 自由研究発表

11:00~12:00 ポスター発表

13:00~16:00 大会主題シンポジウム

<9:00~16:00 関連学会・研究会紹介コーナー>

## 2. テーマ・講師等紹介

記念講演

テーマ:「長谷川良信と私」

講演者:吉田久一(日本社会事業大学名誉教授)

シンポジウムI テーマ:「社会福祉における国際化」

シンポジスト

:萩原康生(日本社会事業大学)

:小林明子(中部女子短期大学)

:木村真理子(東海大学)

司会:岡田 徹(花園大学)

シンポジウムII テーマ:「震災と社会福祉」

シンポジスト

:牧里毎治(大阪府立大学)

:宮城 孝(東海大学)

:小山 隆(同志社大学)

司会:立木茂雄(関西学院大学)

大会主題シンポジウム

テーマ:「社会保障・社会福祉のパラダイム(制度・理念・実践)の転換

シンポジスト

:堀 勝洋(上智大学)

:松原一郎(関西大学)

:松井二郎(北星学園大学)

司会:松崎泰子(淑徳大学)



### 3. 自由研究発表について

自由研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。

#### (1) 口頭発表

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1. 理論          | 10. 女性福祉           |
| 2. 制度・政策       | 11. 地域福祉           |
| 3. 歴史          | 12. 医療福祉           |
| 4. 方法・技術       | 13. 司法福祉・更生福祉      |
| 5. 児童福祉        | 14. 産業福祉・労働福祉      |
| 6. 家族福祉        | 15. 国際社会福祉         |
| 7. 障害児者福祉      | 16. 社会福祉教育・実習      |
| 8. 高齢者保健福祉     | 17. 特別分科会（震災と社会福祉） |
| 9. 公的扶助・低所得者福祉 |                    |

#### (2) ポスター発表

ポスター発表とは、研究成果を口頭ではなく、図表と説明文や写真などを掲示することによって発表するものです。2日目は終日（9時～16時）掲示でき、時間的制約を受けずに、その場で意見交換ができます。同日11時～12時の間に発表時間を設けます。

### 4. 関連学会・研究会の交流会と紹介コーナーの設置について

交流会：日本社会福祉学会に関する諸学会・研究会に、会場（教室・会議室）を提供しようとするものです。特に学会・研究会の条件や会場の利用内容に制限はありません。役員会、打ち合せ会、発表会、研究会等、自由にお使い下さい。

紹介コーナー：日本社会福祉学会に関連する諸学会・研究会の紹介のためのコーナーです。入会申込の受付や、研究紀要や年報の販売等、メンバー以外の方に各学会・研究会の存在をアピールする場にして頂きたいと思えます。

### 5. 学会年次総会

開催日時＝11月11日（土）・大会1日目13：30～14：30  
会場＝淑徳大学記念館

### 6. 懇親会

開催日時＝11月11日（土）・大会1日目18：30～20：30  
会場＝淑徳大学記念館

### 7. 大会参加費等（払い込み締切日：7月21日）

- (1) 大会参加費（報告要旨集を含む）



・会員・非会員とも（学生会員を含む）

7月21日（金）までに振込申請をした場合	6,000円
当日参加の場合	7,000円
非会員の院生・学部学生	3,000円
(2) 懇親会費	5,000円
(3) 弁当予約（必要）	1,000円
(4) 研究報告概要集のみ希望の方	2,500円

郵便振込口座

口座番号 東京00170-4-146659

名称 日本社会福祉学会第43回全国大会事務局

## 8. その他

宿泊等の業務についての仲介は、大会事務局としては一切行いません。各自で、できるだけお早めに宿泊等の予約をお願いします。

## 9. 連絡・お問い合わせ

日本社会福祉学会第43回全国大会事務局

所在地：〒260 千葉市中央区大巖寺町200 淑徳大学

TEL. 043-265-7331

FAX. 043-265-8310

次の研究室にお問い合わせ下さい。金子（保）研究室（内線318）

尚、8月10日～20日は大学が夏期休暇中のため、お問い合わせに応じる事ができません。予めご了承下さい。

## 会場への交通ご案内

◎JR東京駅より京葉線快速（マリンドリーム）40分「蘇我駅」下車 スクールバス7分または徒歩20分

◎JR東京駅より総武線快速45分「千葉駅」下車 バス25分（小湊バス淑徳大学・大巖寺行き終点、千葉中央バス赤井町行き淑徳大学前下車）

尚、お車でのお越しはご遠慮下さい。



# ピーター・タウンゼント教授来日と 淑徳大学創立30周年記念講演会のお知らせ

貧困問題、福祉政策などの研究で世界的権威であるピーター・タウンゼント教授（英国ブリストル大学）が、今年で創立30周年を迎えた淑徳大学の招聘で来日されることになりました。

同大学はタウンゼント教授を迎え、記念講演会、シンポジウムを下記により開催することとしています。会員各位のご参加を歓迎いたします。なお、同教授夫人Mrs. Jean Corstonも同伴され講演の予定です。参加ご希望の方は、同封の申込葉書にて8月31日までにお申込下さい。参加は無料です。

## 記

### 講演会日程

日時：平成7年10月16日（月）午前10時30分開会

場所：東京霞が関イノホール（飯野ビル7階）

（午前）・コーストン夫人（英国労働党国会議員）講演

「英国における男女の不平等の問題」

（午後）・タウンゼント教授 講演

「貧困問題は解決不可能か」

・シンポジウム

「日本の貧困・英国の貧困」

司会 仲村 優一教授      パネリスト 3名

### イノホール案内図

千代田区内幸町2-1-1

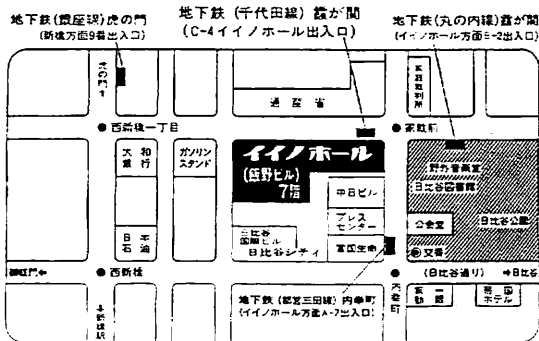
電話03-3506-3251

千代田線・日比谷線・丸の内線

「霞が関」C-4出口

三田線「内幸町」、銀座線「虎ノ門」、

JR「新橋」下車



お問い合わせ

淑徳大学 電話043-265-7331

千代田区内幸町2丁目1番1号 ☎03(3506)3251

▶飯野ビル地下有料駐車場あり

# 1995年度第一回理事会報告会

3月7日(火)午後2時より、国立教育会館において、1995年度第1回理事会が開催されました。

理事、監事総数22名中13名の出席で、本年度の活動についての協議が行われました。理事会での協議事項は本年度総会(11月11日第43回大会時於淑徳大学)において審議されます。

## ◆協議事項

第1号議案 「1994年度会計決算案」  
「監査報告書」  
「1994年度会費納入状況及び1995年度部会還元金の内訳について」  
(P15参照)

第2号議案 「日本社会福祉学会事務局について」  
日本社会福祉学会の協力員として、全国社会福祉協議会の富田恵子氏にお願いしました。又、事務局は、日本マーケティング教育センターの岡井氏と事務局員として春山陽子氏が担当となりました。事務局体制の強化を今後も考えていくこととなりました。

第3号議案 「旅費規定について」  
理事や会議に参加する会員に、学会独自の旅費規定が必要になっております。  
(P13参照)

第4号議案 「選挙について」  
選挙管理委員を5名の方に委嘱 (P12参照)

第5号議案 「第43回全国大会の開催について」

第6号議案 「第44回全国大会につて」

第7号議案 「大震災について」  
関西部会で取り組み、12月3日にシンポジウムを学術会議と共催。

第8号議案 「特別委員会の進捗状況とす  
すめ方について」  
(P12参照)

第9号議案 「社会福祉学36-1について」(6月発刊予定)  
編集委員会で規定を検討し、理事会で承認。新規定は36-2から。

第10号議案 「安田火災記念財団及びキリン福祉財団について」  
他にも文部省の科研費等も含め、助成金の申請は財政的に苦しいこともあり、実施していく予定。

第11号議案 「入会希望者の審査について」  
(P13参照)

報告事項 ①各部会報告  
②その他



## 理事会出欠状況

役職名	理事氏	出欠
代表理事	仲村 優一	○
総務担当理事	大橋 謙策	○
渉外担当理事	秋山 智久	○
機関誌担当理事	太田 義久	○
事務局担当理事	板山 賢治	○
理事 (北海道部会担当)	松井 二郎	○
理事 (東北部会担当)	田代 国次郎	○
理事 (関東部会担当)	窪田 暁子	×
理事 (中部部会担当)	宮田 和明	×
理事 (関西部会担当)	児島 美都子	○
理事 (中国四国部会担当)	中園 康夫	×
理事 (九州部会担当)	保田井 進	○
理事	白沢 久一	×
理事	渡部 剛士	○
理事	阿部 志郎	×
理事	三浦 文夫	○
理事	大友 信勝	×
理事	井岡 勉	○
理事	真田 是	×
理事	岡本 栄一	○
監事	佐藤 進	○
監事	小松 源助	×

[協力員] 富田恵子 (全社協 社会福祉報・  
広報センター副部長)  
事務局員 春山陽子

## 全国大会担当校報告

### 1. 学会開催校と学会事務局との 役割分担

約2,500名もの会員がいる本学会の全国大会については、やはり学会開催校と学会事務局との役割分担や協力が必要であると思われる。今回は、全国社会福祉協議会から事務局が離れたという事情もあったが、学会事務局が全国大会開催のためのいろいろな知識や情報を、学会開催校に伝え、何らかの役割分担をしていくことが必要である。このためにも、まずは学会事務局体制を充実していくことが必要と思われた。

### 2. 会員の質の問題

大会事務局を担当しての感想としては、「2%の会員のために、98%のエネルギーを使う」ということである。大会事務局の準備・運営に協力的な会員がほとんどであるが、2%ぐらいの会員の言動によって、ほとんどのエネルギーを使い果たすことになった。たとえば、決められた期日を守らない、個人的な事情を主張する(ゴリ押し)、提出されたものが不完全、などの問題が出てくる事によって、一人ずつ、一つずつ対応しなければならないからである。

締切期日等についても、次の仕事の関係で、譲れるところまでは譲ったが、どうしても譲れない期日については、厳格に対処した。しかし、これについても「今までの大会事務局ではやってもらった」との不満があった。





### 3. 分科会担当の

#### 学生運営協力員配置について

今回は、極力、学生が担当希望をする分科会、関心のある分科会に配置するようにした。おかげで、学生運営協力員からもやる気がでたとの評価があった。

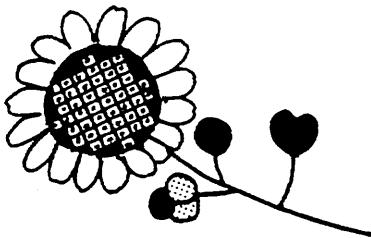
また、全員（つまり、欠席者が一人もなしということ）を集めての事前トレーニングすることが出来なかった。それで分科会には、トレーニングを受けた学生を必ず一人確保するように配置した。このこともスムーズは運営には必要と思われる。

### 4. 連絡には「ふりがなを」

たとえば、返信用はがき、あるいは自由研究発表申し込み等、大会事務局と会員（含む：非会員で大会参加希望者）との連絡のやりとりにおいては、コンピュータでのデータ整理のために「ふりがな」を必ず記入してもらう方が、その後何かと便利である。

### 5. マルチメディア活用

今回、インターネット、ニフティ等のパソコン通信（E-mail）を活用した連絡方法を設定したが、利用者がほとんどなかったのは残念である。しかし、今後はこのようなマルチメディアを活用した大会運営を引続き検討してほしい。



### 6. 事前納入制

今回は、参加費や弁当代、懇親会費の事前納入制を勧めることによって、開催運営費を事前に確保することにした。このために、当日納入参加費との差額を、1,000円とした。事前納入制を勧める方針を打ち出した今一つの理由は、事前納入をしてもらうことで、受付をスムーズに出来るというメリットがあったからである。

約650名の会員・非会員からの事前納入があり、以上の2つのねらいは達成出来たとと思われる。

しかしながら、学会年会費と事前納入参加費が同額であったために、勘違いをした会員が少しみられた。後日、本人の勘違いであったということが判明したが、年会費の6,000円納入を参加費納入済みという勘違いであった。当日の受付で、「納めたはずだ」と強い抗議を受けて、学生運営協力員がいやな思いをもってしまったことは残念であった。

また、学会全国大会に参加しない会員が、年会費と参加費を間違えて、納入してしまい、大会当日に大会事務局から学会事務局に手渡しをしなければならないケースも出てきてしまった。

事前納入制をする場合でも、納入締切時期を大会開催直前にすれば、受付のスムーズさや現金の扱い（おつりの準備を含めて）が少なくすむとメリットがあると思われる。しかし、事前納入制による返金等の事後処理は、思った以上に手間がかかることがわかった。

なお、事前納入制をした場合、納入者に対する「納入確認」連絡が必要であったと反省している。納入しているかどうかの問い合わせが数多くあった。



## 7. データベースの活用

今回の大会準備・運営で役立ったことは、会員名簿ファイルを学会事務局から送ってもらった事である。私共が使っているソフトに変換し、受付用名簿、発表者用名簿作成に大いに役立てることが出来た。

## 8. 分科会での発表資料について

当日配布の発表資料は50部づつ持参するようという連絡をしたにもかかわらず、20部ぐらいしか持参しなかった発表者、あるいは予想以上の出席者があり、持参した50部が不足したことがある。

このような場合、コピー・サービスをどうするかを、大会事務局としては判断しておかねばならない。今回は、どんなに急いでも、その場には間に合わないのので、配布資料は1部を必ず大会事務局に保存するようにし、コピー希望者は、その日の午後に大会事務局まで申し出るようにとの処置をした。約20人ぐらいの利用者があった。

## 9. 資料配分のためのフリースペース

自由研究発表者が発表時に配布した資料が余った時、あるいは、学会参加者に配布したい資料等のための「フリースペース」を設けるとよいのではないかの意見があった。

## 10. 視聴覚機器の確認

(1) 分科会発表におけるOHP、スライドの使用を申し込んだにもかかわらず、希望したことを忘れていた発表者（自分の思い込みでスライド、OHPシートを準備してきた）がいた。

(2) 当日にスライドからOHP、あるいはOHPからスライドへと変更を当然のごとく

申し出る発表者がいた。

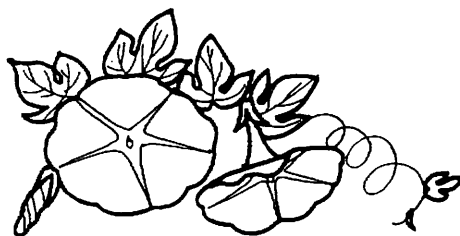
(3) また、スライドに関しては、スライドケースへのセットと試写をしてもらうためにわざわざ事前準備室を設けた。このことは発表者にも連絡したにもかかわらず、まったく無視し、発表直前になってからあわててセットしたりしたために、発表時間がずれ込んでしまったり、スライドが逆になっていた会員が少し見受けられた。

(4) 発表者でスライドやOHPの「補助者」を用意してもらうことも事前に連絡したが、補助者を頼んでいない人がいて、司会者や学生協力員が急遽補助するケースもあった。

大会事務局としては、効率良く視聴覚機器を使用するために分科会会場設営・発表順等に工夫をしていた。たとえば、OHP使用者は同一会場に集める、スライド発表者は、準備室でセットせずに、会場で直前にセットする人がいるかも知れないので、万が一を考えて、連続発表としない等である。しかし、以上の様な問題が発生し、対策に苦慮した。

解決のために：

1. 上記の(1)、(2)に関しては、同じ会場内にその機器があれば、これに対応できたが、そうでない場合は、他の会場から至急持





って来るようにした(大会開催直前にも数人の変更申し出があったが、同じ会場にその機器があれば出来るだけ応じるようにした)。

2. (1)、(2)の問題が起きないようにするために、「大会プログラム」掲載の発表者・テーマ欄に使用する視聴覚機器名を明記しておく。

3. 「原則として、途中からの視聴覚機器変更を認めない」由を大会プログラムに明記する事等が考えられる。

◆ともあれ、視聴覚機器の準備、活用は大会事務局にとって手間がかかり、エネルギーを使い果たすことになる。

### 1 1. 発表の質向上のための手立て

今回、260もの分科会発表があったが、一部の会員から発表内容の質についてのクレームが大会事務局に寄せられている。発表内容よりは発表したことでの「業績稼ぎ」になっている場合もある。学会全体の問題として、何等かの検討が必要ではないだろうか。

### 1 2. 分科会司会者の依頼について

上記の1 1との関連でいえば、分科会司会者は、発表者の中から依頼することが慣例となりつつあるが、単なる「進行」をする司会者ではなく、発表内容についてのコメントや質問、あるいは時間があれば総括討議等が出来るような司会者も必要なのではないかと思われた。

そのためには、発表者の中からの司会者依頼ではなく、その分科会内容にあさわしい司会者を理事会より指名・依頼する方法も検討してはどうかと思われる。

### 1 3. 大会評価のアンケートが必要

今回、大会事務局として検討しながら結局、実施出来なかったが、大会に関する評価アンケートを取るべきであったと反省している。次回につなげていくためにも理事会・学会事務局との連携による実施が必要ではないだろうか。

### 1 4. 車イス用会場マップ作成

について

今回の反省点として、車イス用会場マップを作成すべきであったと思う。車イス利用者から、どこにスロープがあるのか、エレベーターはどこにあるのかが分からず、とても不便であったとの指摘をいただいた。案内掲示と共に、大会プログラムにもマップを掲載すべきであったと反省している。

### 1 5. 車イス介助について

学生運営協力員に対しての、介助講習会を開くべきであったと反省している。同志社大学の場合、1年生次の必修科目の中で「介助講習会」を行っているが、これでは不十分であった。この点についても、車イス利用者から「介助の仕方」についての問題指摘があった。

### 1 6. 発表者会員資格確認について

学会事務局と連携しながら、発表者(共同報告者も含む)の会員資格を確認しなければならない。

このためには、次の様な方法を検討してはどうか

(1) 分科会発表の正式申込用紙(報告要旨集原稿提出時)に、共同報告者も含めて、会



員番号を記入させる（会員名簿、住所シールに会員番号が記載されている）。（2）非会員で、発表したい人には報告要旨集原稿提出時の正式申込までに手続きをするように、「開催案内」時、あるいは「報告要旨原稿送付」時に知らせること。（会員申込をしたかどうかを、学会事務局との間で確認しなければならない）

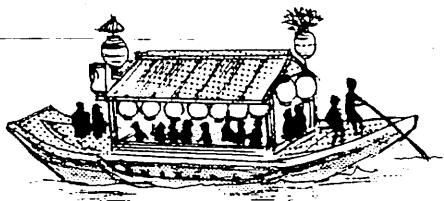
17. 大会開催のための備品について  
たとえば、分科会会場にて使用する予鈴用の「ベル」の確保にたいへん苦勞した。学会事務局にて管理することにし、大会開催に必要な備品を学会として確保しておくようなことを検討していただきたい。

### 18. 学会事務局への届を

住所変更先不明などで返信される郵便物が多数あった。また、大会事務局に対して住所変更などを知らせてくる会員も多くいた。事務局との区別をしていただくとともに、学会事務局への住所変更届を忘れずに出していただきたい。

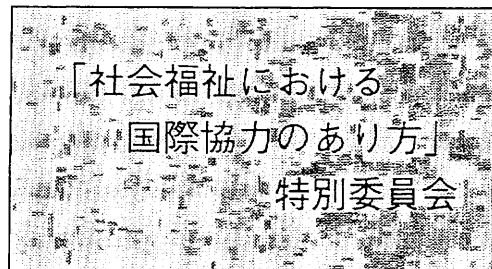
以上、ご報告申し上げます。

報告者；第42回全国大会事務局  
事務局長 黒木 保博  
1995年2月21日



下記の方々に選挙管理委員会委員を委嘱いたしました。

委員長 松原 康雄（明治学院大学）  
宇都 栄子（専修大学）  
岡部 卓（東京都立大学）  
佐藤 豊道（東洋大学）  
高橋 五江（淑徳大学）「社会



福祉における国際協力のあり方」特別委員会  
全国研究会は、5月27日に今年第1回を開催し、地方部会の報告や研究の進め方を検討しました。

今後の予定は、7月29日、9月30日、11月に開催し、来年の3月頃に報告をする予定です。

全国研究会のメンバーは、東北部会と関東部会の委員長が変わりましたので、今年のメンバーをお知らせ致します。

仲村 優一（委員長）  
窪田 暁子（副委員長）  
原 鉄哉（東北福祉大学）  
三谷 謙一（関東部会）  
高島 進（中部部会）  
岡本 民夫（関西部会）

保田井 進 (九州部会)  
秋山 智久 (渉外担当理事)

## 日本社会福祉学会旅費規定

### 1. 旅費

本学会の開催する理事会、編集委員会、その他諸会議に本学会の役員、が参加する際に出費する交通費とする。

(1) 会議開催地から、会議出席者の居住する最寄り駅までとする。

(2) 100 km未満の場合は、一律2,000円とする。

(3) 100 km以上の場合は、往復運賃及び特急料金の実費を支給する。

(4) 航空機を使用する場合は、往復の航空料金及び会議開催地までの交通費を支給する。

### 2. 活動費

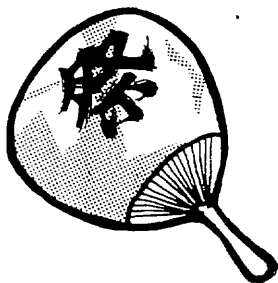
一律1,000円とし、上記交通費に併せて支給する。

### 3. 宿泊費

宿泊を必要とする場合は、12,000円を限度として支給する。

### 付則

- この規定は1995年1月1日より施行する。
- 本人の申請に基づいて上記交通費を支給する。



## 入会希望者の審査結果

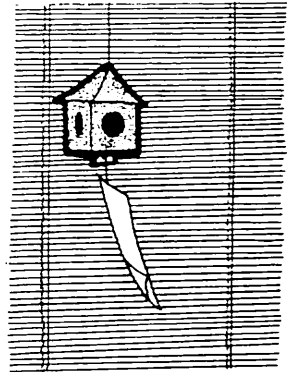
### 入会希望者の審査結果

入会希望者の審査の結果、下記の54名の方の入会が決まりました。

- |    |        |               |
|----|--------|---------------|
| 1  | 成 明玉   | 韓国釜山大学校社会科学大学 |
| 2  | 久木元 司  | 明星学園          |
| 3  | 土屋 宏明  | 社会福祉法人 慶明会    |
| 4  | 武田 廣一  | 高知県立精神保健センター  |
| 5  | 大原 義行  | 龍谷大学          |
| 6  | 川原 健史  | 大阪府池田保健所      |
| 7  | 久松 英保  | 神戸女子大学        |
| 8  | 丸岡 利則  | 摂津市役所         |
| 9  | 佐藤 亜樹  | 京都国際社会福祉センター  |
| 10 | 西川 京子  | 関西学院大学        |
| 11 | 坂井 清泰  | 滋賀大学大学院       |
| 12 | 加藤 勝弘  | 都立小平養護学校      |
| 13 | 西郷 泰之  | 玉川大学          |
| 14 | 上原 施門  | 山形県立米沢女子短期大学  |
| 15 | 日高 雄一郎 | 中央法規出版        |
| 16 | 菊地 和則  | 東京都老人総合研究所    |
| 17 | 池田 政嗣  | かなやの里 更生園     |
| 18 | 小森 正広  | 白川病院          |
| 19 | 松田 澄子  | 山形県立米沢女子短期大学  |
| 20 | 松岡 洋子  | 京都短期大学        |
| 21 | 加藤 春樹  | 京都つくし会つくしハウス  |
| 22 | 吉田 恒雄  | 駿河台大学         |
| 23 | 福島 健   | 国立療養所東埼玉病院    |
| 24 | 岡本 洋子  | 日本国際社会事業団     |
| 25 | 石井 三知子 | 保健同人社         |
| 26 | 相田 奈津子 | 茅ヶ崎養護福祉専門学校   |
| 27 | 宇佐川 浩  | 淑徳大学          |



- |    |        |              |    |       |              |
|----|--------|--------------|----|-------|--------------|
| 28 | 阿部 秀樹  | 淑徳大学         | 49 | 坂東 紀子 | 日本女子大学大学院    |
| 29 | 豊田 保   | 東京都立川高等保育学院  | 50 | 小坂 和夫 | 郡山女子大学       |
| 30 | 小原 眞智子 | 日本医科大学附属第三病院 | 51 | 内 慶瑞  | 小矢部市社会福祉協議会  |
| 31 | 千徳 廣史  | 淑徳大学         | 52 | 小野 昌彦 | 筑波大学大学院      |
| 32 | 伊藤 益   | 淑徳大学         | 53 | 柴田 博  | 秋田県心身障害者センター |
| 33 | 阿内 正広  | 淑徳大学         | 54 | 渡部 誠  | 精神薄弱者施設東山学園  |
| 34 | 斎藤 秀樹  | 秋田県老人クラブ連合会  |    |       |              |
| 35 | 三浦 伸子  | 羊ヶ丘養護園       |    |       |              |
| 36 | 飯浜 浩幸  | 旭川福祉専門学校     |    |       |              |
| 37 | 加藤 欣子  | 札幌医科大学       |    |       |              |
| 38 | 島田 肇   | 東京都清瀬養護園     |    |       |              |
| 39 | 金田 知子  |              |    |       |              |
| 40 | 小川 由久子 | 南海福祉専門学校     |    |       |              |
| 41 | 二木 立   | 日本福祉大学       |    |       |              |
| 42 | 稲子 宣子  | 日本福祉大学       |    |       |              |
| 43 | 矢野 泉   | 東京大学大学院      |    |       |              |
| 44 | 柴田 嘉彦  | 日本福祉大学       |    |       |              |
| 45 | 山本 恵子  | 仏教大学         |    |       |              |
| 46 | 西村 万里子 | 社会保障研究所      |    |       |              |
| 47 | 増子 勝義  | 城西大学         |    |       |              |
| 48 | 小林 博   | 神戸大学         |    |       |              |



### 会員の異動及び現況

	A (1995年3月7日現在)	%	B (1994年9月26日現在)	%	増減 (A - B)
会 員 総 数	2 3 5 1 名	100.0%	2 2 2 3 名	100.0%	1 2 8 名
北 海 道 部 会	1 0 7 名	4.5%	1 0 6 名	4.8%	1 名
東 北 部 会	1 3 3 名	5.6%	1 2 7 名	5.7%	6 名
関 東 部 会	9 3 5 名	39.7%	8 8 4 名	39.8%	5 1 名
中 部 部 会	2 6 1 名	11.1%	2 4 5 名	11%	1 6 名
関 西 部 会	5 3 9 名	22.9%	5 0 3 名	22.6%	3 6 名
中・四 国 部 会	1 9 6 名	8.3%	1 8 4 名	8.2%	1 2 名
九 州 部 会	1 6 9 名	7.1%	1 6 5 名	7.5%	4 名
その他 (海外居住者等)	1 1 名	0.4%	9 名	0.4%	2 名



1994年度内ブロック別会費収入及び1995年度部会還元内訳

部 会	1994年度会費	合 計	1995年度 部会還元金
北海道 ブロック	6,000×68	580,500	58,050
	6,500×9	内入会金計 4,500	
東 北 ブロック	6,000×76	562,500	56,250
	6,500×9	内入会金計 4,500	
関 東 ブロック	6,000×581	4,735,000	473,500
	6,500×77	内入会金計 43,000	
中 部 ブロック	6,000×170	1,333,500	133,350
	6,500×25	内入会金計 13,500	
関 西 ブロック	6,000×361	2,611,000	261,100
	6,500×11	内入会金計 7,000	
中国四国 ブロック	6,000×137	985,000	98,500
	6,500×11	内入会金計 7,000	
九 州 ブロック	6,000×126	962,000	96,200
	6,500×16	内入会金計 8,000	
海 外 ブロック	6,000×5	36,000	
	6,000×1	内入会金計 500	
合 計	6,000×1,525 6,500× 159	18,000×1 12,000×1 6,000×1773 6,500×176	1,176,950
	10,177,500 (内入会金 79,500)	11,806,000 (内入会金 88,000)	

※各ブロックごとに上段には各年度会費、下段には入会金を含む各年度を記載してあります。



## 学会ニュース・第8号 編集後記

●今年の研究発表大会は淑徳大学で11月11～12日に行われます。準備も順調に進んでいます。会員の皆様の奮ってのご参加おまちしています。

●日本の社会福祉は「介護保険」制度の制定を巡って大きく揺れ動いています。今年の淑徳大学での研究発表大会のテーマが「社会保障のパラダイム転換」ですので、全く時宜に遭ったテーマです。大井に論議が行われることを期待したいものです。

●淑徳大学は大学創設30周年記念行事として大会開催を引き受けて下さいました。大会に合わせて、イギリスの貧困研究の第一人者であるタウンゼント教授を招聘する予定だったのですが、タウンゼント教授の都合により来日の日程が早まってしまいました。このニュースと一緒にタウンゼント教授の講演日程を同封しましたので、会員の皆さんには大会プログラムの一環としてタウンゼント教授

の講演に参加されますことを期待します。  
(総務担当理事 大橋 謙策)

## 事務局連絡

▲新しい名簿をお手元にお届けします。住所や勤務先等の変更ハガキが600通を越え現在も届いております。残念ながら、名簿作成までに間に合わなかった会員の方もいらっしゃると思いますが、総会の資料に掲載させていただきます。

▲理事及び監事選挙の投票用紙を同封致します。夏休みに入り、皆様ご多忙とは存じますが、よろしくお願ひ致します。

(締切日 9月20日(水) 到着分まで有効)

▲「社会福祉学」(36-1)も別便でご送付致しております。バックナンバーご希望の方は、ハガキ又はFAXにてご連絡下さい。

▲学会事務局にFAXとコピー機が入りました。ご活用下さい。

FAX. 03-3358-2204

(事務局 春山)

### 学会事務局のご案内

窓口業務時間(月～金) 10:00～16:30

休業日 土、日、祝祭日

夏期休業 8月10日～8月19日

年末年始休業 12月23日～1月6日

\*事務局員外出の場合は、留守番電話での対応になることがありますが、ご了承下さい。

※

発行人 仲村 優一

編集人 大橋 謙策

発行日 1995年7月20日

発行 日本社会福祉学会

〒160 東京都新宿区四谷4-6-1四谷サンハイツ1208号室

TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204

※

※

学会ニュース8号

※